

(2)その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付け( ISI citation など)など。\* ISI データのない場合は、可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

| 分野          | 取組と成果、世界的位置づけ   | 18年度の状況  |
|-------------|---|--|
| 特筆すべき教育活動   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農学研究科、医学系研究科、環境科学研究科と合同で、ヒューマン・セキュリティを実現する国際社会の建設に面的側面から貢献することを目指し、17年度から「ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラム」を発足させた。18年度に初めての学生を受け入れ、19年度継続からも、同プログラムへの進学を目指す研究生を受け入れる。</li> <li>2. 21世紀COEプログラム「言語・認知総合科学連携研究教育拠点」における教育研究実績を基盤として、研究科附属「言語・認知総合科学研究センター」を設置し、言語・脳・認知の分野で活躍できる人材の養成に取り組んでいる。</li> <li>3. 本研究科の21世紀COEプログラム「言語・認知総合科学連携研究教育拠点」に所属した学生2名が、新領域分野での国際的に通用する若手研究者の養成を目的として発足した、本学の国際高等研究教育院の言語・人間・社会システム領域の修士研究教育院生として支援を受けている。</li> </ol> | <p>21世紀COEプログラム「言語・認知総合科学連携研究教育拠点」では、博士課程後期3年の課程の1年目に所属以外のプログラム参加の研究室において、集中的な研修を受ける制度を設けた。また同プログラムの最終年度の教育を推進するとともに、国際高等研究教育院と連携して学際的な新分野の教育に参画した。</p>  |
| 特筆すべき研究活動   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「みやぎ自動車リサイクルセンター(宮城県エコファクトリー第1号指定工場)」と協力して、アジア地域における自動車リサイクルの共同研究を継続している。</li> <li>2. 佐藤研一教授、鈴木美津子教授、藤田緑教授は「日本、イギリス、ドイツにおける18世紀文芸にみる異人像」という先端的かつ学際的な研究を、研究科長兼学費プロジェクトおよび科研費研究として進めている。</li> <li>3. 21世紀COEプログラム「言語・認知総合科学連携研究教育拠点」の後継組織として研究科附属「言語・認知総合科学研究センター」を設置し、言語・脳・認知の分野の研究をより高い水準で推進している。</li> </ol>  | <p>石炭エネルギーセンターとの共同研究を継続した。三星経済研究所からの出資助成を継続した。昨年からの出資助成(3Rイニシアティブ特別助成)の助成を受け、「みやぎ自動車リサイクルセンター(宮城県エコファクトリー第1号指定工場)」と、アジア地域における自動車リサイクルの共同研究を進めている。</p> <p>21世紀COEプログラム「言語・認知総合科学連携研究教育拠点」の研究成果を基盤とする後継組織として研究科附属「言語・認知総合科学研究センター」の設置を立案・決定した。</p> |
| 特筆すべき社会貢献活動 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会「欧州連合 フランスからの視点」(仏大使館公使 クリストフ・ブノ氏)を開催した。</li> <li>2. インド人研究者やイギリス人研究者を招いて、公開シンポジウム「次世代に残すアジアの文化と技術」を開催した。</li> <li>3. 第14回公開講座「18世紀文芸にみる異人像」を今秋開講予定。</li> </ol>  | <p>第13回公開講座「『生きざま』の研究Part 2 人間の魅力とは何か」を開講した。韓国伝統音楽公演「韓国風流との出会い コムゴとヘグムの調べ」ヨーロッパ文化講演会「EUにおける言語教育の現在」(仏国際教育学研究センター所長 アルベール・プレヴォ氏)日中韓学術交流公開フォーラム「東アジアにおける日本研究 言語・文学・思想」を開催した。</p>   |